

経済連情報 2

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2024. 2
● NO.1313

令和5年度「静岡みかん」 消費宣伝事業について

Main topics

令和5年度「静岡みかん」消費宣伝事業について…01

topics&news

静岡いちごをPR

静岡いちごを県知事に贈呈 ……………03

みちよばさんを4年連続で起用

静岡いちご特設サイトとプロモーション動画を公開 …03

生産技術向上のため

第21回西部地区いちじく生産者大会を開催…04

学生が配合肥料の設計を体験

令和5年度インターンシップを開催 ………04

出向く活動の取組状況を確認

営農経済渉外(TAC)連絡協議会を開催…05

仕上り、貯蔵性を競う

第58回静岡県貯蔵ミカン品評会

第44回静岡県中晩生柑橘品評会(ポンカンの部) …05

お知らせ

土壌肥料分析センターINFORMATION …06

最新研究紹介

葉面積を非破壊・非接触で測定するセンサの実用化 …07

お知らせ

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 …09

JAタウンしずおか「手しお屋」おすすめ商品のご紹介 …09

提携協NEWS …………… 10



▲静岡いちごプロモーション動画を公開



▲第58回静岡県貯蔵ミカン品評会

令和5年度「静岡みかん」消費宣伝事業について

I はじめに

温暖な気候を生かした柑橘類の栽培が盛んな本県は、県内全域でミカンが生産され、令和4年の産出額は全国第2位、本県の主要農産物の中では第1位となりました（出典…農林水産省「生産農業所得統計」。本県産ミカン（静岡みかん）の主力品種は「青島温州」で、11月頃から収穫が始まり、12月～1月に出荷の最盛期を迎えます。

今回のメイントピックスでは、出荷の最盛期を迎えている「静岡みかん」の有利販売のために静岡県経済連柑橘委員会が取り組む令和5年度の消費宣伝事業について詳しくご紹介します。

II 静岡県経済連柑橘委員会について

静岡県経済連柑橘委員会は、県内で柑橘類を産出する9農協により組織されています。事務局を本会柑橘果樹課が担っており、三ヶ日町柑橘出荷組合の森田能正組合長が令和5年度同委員会の委員長を務めています。

III 令和5年度消費宣伝事業

静岡県経済連柑橘委員会は「静岡みかん」の認知度向上と購買意欲の醸成を高め、消費拡大につなげるため、出荷最盛期に合わせて静岡県内及び首都圏において「大相撲」とのコラボを中心とした次の消費宣伝活動を実施しました。

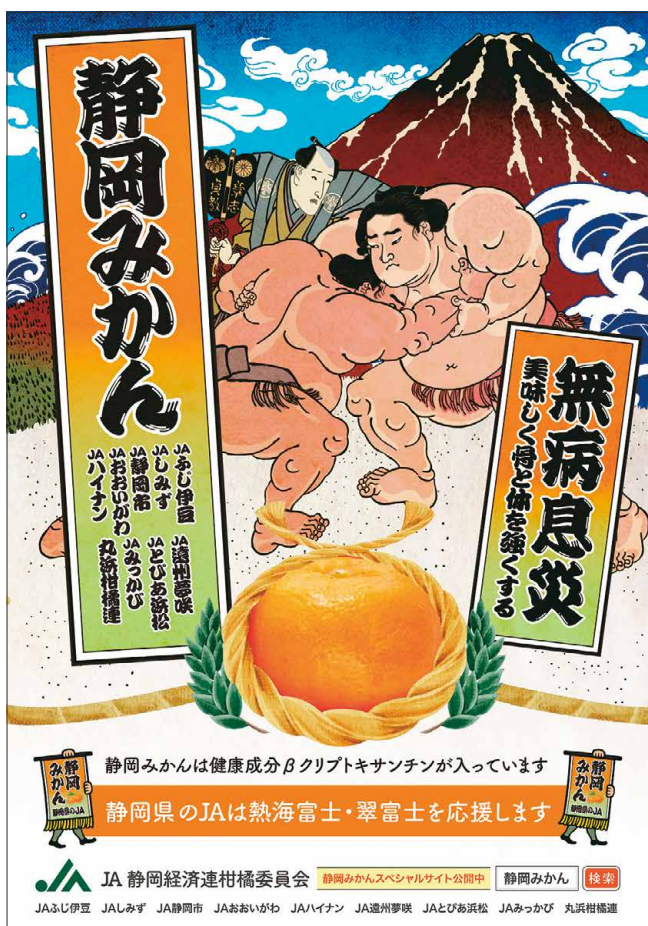
1. 大相撲初場所での懸賞旗を掲出

1月14日～28日に東京・両国国技館で行われた大相撲初場所において、

県内出身力士の熱海富士関と翠富士関を応援するため、幕内の取組前に「静岡みかん」の懸賞旗を掲出しました。懸賞旗を土俵の上で周回し、観客やテレビ中継での映り込みによりアピールしました。

2. 力士へ「静岡みかん」を贈呈

同委員会は12月25日、東京都江東区の相撲部屋「伊勢ヶ濱部屋」を訪問し、県産の青島みかん11ケースを贈呈しました。贈呈式では、森田委員長より伊勢ヶ濱親方に直接ミカン



静岡みかんは健康成分βクリプトキサンチンが入っています

静岡県のJAは熱海富士・翠富士を応援します

JA 静岡経済連柑橘委員会 静岡みかんスペシャルサイト公開中 静岡みかん 検索

JAふじ伊豆 JAしずく JA静岡市 JAおおいかわ JAハイナン JA遠州夢咲 JAとびあ浜松 JAみっかび 丸浜柑橘連



▲初場所で土俵を周回する懸賞旗



▲伊勢ヶ濱親方（右）にミカンを贈呈する森田委員長



▲JR両国駅に掲載された宣伝広告

を手渡しました。

3. JR両国駅構内で大相撲とのコラボ広告を掲出

大相撲初場所の開催に合わせて、1月15日～28日の14日間、JR両国駅西口コンコース内にビジュアル広告を掲出しました。

4. 「静岡みかん」の配布イベントを実施

JR両国駅構内と東京都内の商業施設「ららぽーと豊洲」において、「静岡みかん」の配布イベントを行いました。JR両国駅では、「相撲観戦のお供に静岡みかん！」をテーマに1月18日～21日の4日間実施し、大

相撲の来場者や駅利用者に向けて配布しました。ららぽーと豊洲では1月20日に熱海富士閣、翠富士閣の出身校である沼津市の飛龍高等学校相撲部の生徒らが配布に参加し、消費者に向けてアピールしました。

5. 県内消費宣伝

静岡朝日テレビの番組「とびつきり静岡土曜版」、「スポーツパラダイス」の放送内で30秒CMを放映、「とびつきり静岡土曜版」では県内のミカン農園取材し、特集を放送しました。また、「情報番組いりどりナビ」では視聴者プレゼントを実施しました。



▲配布イベントに参加した飛龍高校相撲部の皆さん

IV その他の取組について

WEBサイトでの情報発信として、静岡みかんスペシャルサイト (<https://shizukamikan.jp/>) を通じて、生産者からのメッセージや生産データなどの産地情報を公開、イベントやキャンペーンの告知などの最新情報も随時更新しています。



▲特設サイトはこちら

V おわりに

今回のメイントピックスでは、出荷最盛期を迎えた令和5年度「静岡みかん」の消費宣伝事業についてご紹介しました。静岡県経済連柑橘委員会では、引き続き販売強化の取組を実践し、「静岡みかん」の有利販売と農家所得の向上に取り組んでまいります。ぜひ、「静岡みかん」をご賞味ください。

問い合わせ先

●静岡県経済連柑橘委員会
事務局…みかん園芸部 柑橘果樹課
電話…054-284-9912

静岡いちごをPR

静岡いちごを県知事らに贈呈

静岡県いちご協議会（事務局：野菜花卉課）は12月22日、静岡市葵区の県庁を訪れ、川勝平太静岡県知事と出野勉副知事、森貴志副知事らに県産いちごの主力品種「紅ほっぺ」と「きらび香」を贈呈しました。贈呈式では、同協議会の飯田寿夫会長らが出席し、今年度の生産状況などを報告しました。また、「静岡いちご」のPR活動を行う「静岡いちご娘」も同席し、川勝知事らにいちご

を手渡しました。

飯田会長は「今年度は夏場の猛暑などで定植が遅れ、難しい栽培環境だったが、生産者の皆さんの努力で高品質ないちごが収穫できている。」と話し、川勝知事は「県としても関係者と協力し、静岡いちごをPRしていきたい。」と心えました。

みちよばさんを4年連続で起用

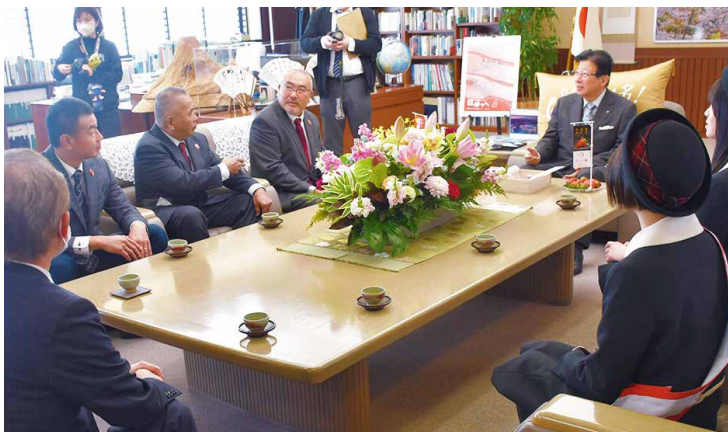
静岡いちご特設サイトとプロモーション動画を公開

静岡県いちご協議会（事務局：野菜花卉課）は1月15日、「静岡いちご」の特設サイトとプロモーション動画を公開しました。

イメージキャラクターは、本県出身でタレント・モデルとして活躍する池田美優（みちよば）さんが4年連続で務め、「静岡いちご」の主力品種「紅ほっぺ」と「きらび香」をPRします。また、みちよばさんを起用したポスターや等身大パネル、ポ

ップなどを作成し、販促イベントなどで活用します。

プロモーション動画はテレビCMとして県内限定で放映される他、動画投稿サイト「YouTube」の本会公式チャンネルにて撮影のメイキング映像とともに5月末までの期間限定で配信しています。「静岡いちご」特設サイト（<https://ichigo-shizuoka.jp/>）からも視聴できますので、ぜひご覧ください。



▲プロモーション動画撮影のようす



▲販促用ポスター



▲特設サイトはこちら



▲プロモーション動画はこちら

生産技術向上のため

第21回西部地区いちじく生産者大会を開催

静岡県果樹振興協会と西部共計いちじく産地協議会は12月13日、掛川市内で「第21回西部地区いちじく生産者大会」を開き、県西部地区の生産者とJA職員ら42人が参加しました。

大会では、令和5年産のいちじくの生産状況や販売経過などを共有した他、8月に開催した「第35回西部地区いちじく果実品評会」の表彰式も行い、上位入賞者に賞状を授与しました。

記念講演では、大阪府立環境農林水産総合研究所の上森真広研究員が



▲表彰を受ける金賞の高畑悟さん（JA遠州夢咲）

病害防除の研究成果として、いちじく株枯病の抵抗性台木「励広台1号」を紹介しました。「励広台1号」の台木を利用した試験栽培の結果から株枯病菌の感染に対して強い抵抗性を持つことが確認され、いちじくの主要品種「柘井ドーフィン」の株枯病対策に有効であると説明しました。また、同研究員は温暖化が果樹栽培に及ぼす影響についても講演し、温暖化による発芽日の早期化について報告しました。



▲記念講演のようす

学生が配合肥料の設計を体験

令和5年度インターンシップを開催

人事教育課は12月27日、就職活動中の学生に就業体験を通じて本会の事業内容や役割を知ってもらうため、静岡市内でインターンシップを開催し、学生約30人が参加しました。

インターンシップは、8月に続き今年度2回目の開催となり、今回は肥料・農業をテーマに行いました。

講義では、生産資材部の担当職員が肥料・農業の基礎知識や1日の業務の流れなどを説明しました。その後、参加した学生は、5つの班に分かれてグループワークを行い、みかんやトマトなどの作物に合う配合肥料を設計しました。班ごとに値段や



▲グループワークで意見交換をする学生ら

商品名を話し合い、それぞれの配合肥料を提案しました。また、魚粕やなたね粕などの原料を使っ



▲配合肥料について講義する生産資材部の担当職員



出向く活動の取組状況を確認 宮農経経済渉外(TAC) 連絡協議会を開催

生産振興開発課は12月21日、県農業会館で「宮農経経済渉外(TAC)連絡協議会」を開きました。協議会は令和5年度2回目の開催となり、本会とJA全農、県内JAのTAC担当者ら11人が参加しました。

協議会では、JA全農の外園賢司審査役がTACの全国情勢や整備状況、優良事例を紹介しました。各JAの担当者からは令和5年度の活動状況を報告し、人材育成などの課題について意見交換を行いました。

また、出向く活動を行うTAC担当者のコミュニケーション力や提案力の向上に向けた教育研修プログラムの実施状況についても共有しました。



仕上り、貯蔵性を競う

第58回静岡県貯蔵ミカン品評会 第44回静岡県中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)

静岡県柑橘振興基金協会と柑橘果樹課は1月16日、県農業会館で「第58回静岡県貯蔵ミカン品評会」と「第44回静岡県中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)」を開きました。

貯蔵ミカンでは、最上位の優秀賞・農林水産大臣賞に高橋誠さん(JAみっかび)、中晩生柑橘(ポンカンの部)では、最高位の優秀賞に西ヶ谷悦子さん(JAしみず)が選ばれました。高橋さんは昨年度に続き2年連続での受賞となりました。

貯蔵ミカン品評会には246点、中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)には57点の出品がありました。農業・



▲審査の様子

食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門の塩谷浩カレンツ研究領域長が審査長を務め、同機構や県農林技術研究所果樹研究センター、市場担当者と消費者代表ら審査員20人が、形状や玉ぞろいなどの外観と、肉質・食味の内容、鮮度充実の貯蔵性を審査しました。

出品された貯蔵ミカンの平均糖度は12.9度、最高は17.0度でした。ポンカンは平均12.5度、最高13.9度でした。

柑橘果樹課は「今年度は降水量が少なく収穫期に適度な乾燥があり、例年より糖度が高く推移した。出品物についても高品質なミカンが揃った」と話しました。



▲優秀賞(最上位)の貯蔵ミカン



▲優秀賞のポンカン

第58回 静岡県貯蔵ミカン品評会

賞	JA名	氏名	品名	備考
優秀賞	JAみっかび	高橋 誠	陽一郎	農林水産大臣賞
	JAとびあ浜松	倉田辰夫	青島	農林水産省農産局長賞
	JAとびあ浜松	杉山忠夫	青島	農林水産省関東農政局長賞
	JAふじ伊豆	石倉 健	寿太郎	静岡県知事賞
	JAみっかび	清水一則	青島	静岡県経済産業部長賞
	JAみっかび	清水厚徳	青島	日本園芸農業協同組合連合会会長賞
	JAみっかび	清水 広	青島	静岡県京浜地区果実流通協議会長賞

第44回 静岡県中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)

賞	JA名	氏名	品名	備考
優秀賞	JAしみず	西ヶ谷悦子	太田	静岡県経済産業部長賞

た。」と話しました。
優秀賞受賞者は次のとおり(敬称略)。

土壌肥料分析センター INFORMATION



本会の土壌肥料分析センターは大井川肥料工場に併設し、工場で生産した配合肥料の品質管理やJAの依頼による土壌の分析をつうじ、各JAの施肥設計や土づくり指導に活用される土壌診断のフォローなどを行っています。その中で今回は、肥料の保証成分のチェック機能を担い、徹底した品質管理を行う本会の肥料分析事業の取組を報告します！

本会の肥料分析機能について

土壌肥料分析センター内には、原子吸光度計や紫外可視分光光度計、窒素自動測定器などの分析機器を導入しており、窒素、リン酸、加里、苦土、微量要素など、肥料成分の分析を行っています。大井川肥料工場の製造する指定配合肥料は、登録肥料を混合して製造することから、製造銘柄からランダムにサンプリングして品質検査を行っています。令和4年度には102点、656成分を分析しました。近年、肥料原料や輸送費などの高騰により、肥料価格が上昇しており、より適正な施肥が求められています。本会の肥料製造および肥料分析事業による品質管理の成果として、より良い農産物生産をつうじて、農家の皆様の所得向上へ貢献していきます。



土壌肥料分析センターの技術力を証明 肥料分析評価で一般の部関東2位を受賞！

土壌肥料分析センターは、東京肥料品質保全協議会肥料分析部会の主催する「第46回全国共通試料による肥料分析」において、化成肥料「一般の部」で関東地区2位を受賞しました。

肥料分析には関東地区25機関、全国128機関が参加、同一の肥料サンプルを分析して互いの精度を評価し、11月22日に神奈川県内で分析成績の発表会が行われました。肥料検査協会や肥料メーカー等の専門の分析機関が参加するなかでの受賞により、日頃の配合肥料の品質確認の正確性が客観的に評価されました。

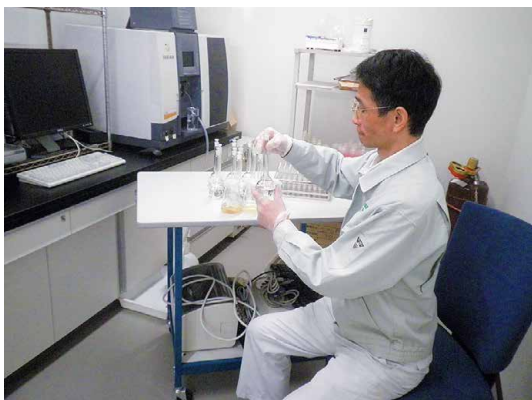


▲土壌肥料分析センター担当者

堆肥や未利用資源、有機質肥料の活用など、対応すべき技術が増えていますが、継続的な技術研鑽により、安心して配合肥料をご使用いただけるよう、大井川肥料工場と連携して品質管理を徹底してまいります。

土壌肥料分析センターでは、土壌診断により農家やJAの皆様の適正施肥を支援する機能も併せ持っています。ぜひ、JAの配合肥料のご活用をお願いします。

担当…土壌肥料分析センター
TEL…054-664-3250



▲肥料分析を担当する齊藤宏係長

農林技術 研究所 だより

葉面積を非破壊・非接触で

測定するセンサの実用化

私が紹介します！



静岡県農林技術研究所
研究統括官兼
次世代栽培システム科長
前島 慎一郎

一 はじめに

静岡県では、先端技術や本県が誇るものづくり技術を農業分野に利用することで、農業の飛躍的な生産性向上と、農業を軸とした関連産業のビジネス展開を推進するA O O (Agri Open Innovation) プロジェクトを推進しています。

農林技術研究所次世代栽培システム科は、プロジェクトの拠点となるAOI-PARC (沼津市) に駐在し、研究開発に取り組んでいます。

AOI-PARCでは、オープンイノベーションのプラットフォームとなる会員制組織「A O O フォーラム」を運営する一般社団法人アグリオープンイノベーション機構が入居し、生産者や事業者が行う事業化に向けた様々な取組を支援しています。

今回、A O O プロジェクトの成果



図1 栽培中のイチゴの草姿

二 イチゴ葉面積の非破壊評価技術

として、私たちが開発した栽培中の農作物の葉面積を非破壊・非接触で自動的に測定する「葉面積評価センサ」が実用化されたので紹介します。

イチゴの果実は、葉で行われる光

合成によって生育します(図1)。

葉面積が大きいほど光合成も大きくなりますが、葉面積が大きすぎても病害虫の発生を助長する可能性があるなど、収量を左右する重要な指標となっています。

イチゴ栽培における管理には、葉

面積の増加を目的とした夜間電照処理や多すぎる葉を除去する摘葉作業がありますが、その基準は生産者の経験や勘に頼るところが大きく、葉面積を簡便に把握する方法が要望されていました。しかし、栽培中の株全体(群落)の葉面積を簡便に測定



図2 葉面積評価センサ

する方法はありませんでした。

この問題を解決するため、イチゴの葉を透過する近赤外光と可視光との比を計測することで、群落の葉面積を非破壊・非接触で簡便に評価できる技術を開発しました(特許第7185233号)(図2)。

この技術は、光合成に利用される可視光が、利用されない近赤外光に比較して、葉に吸収されやすいという特性を利用したもので、A O O フォーラム会員の山本電機株式会社が「葉面積評価センサ」として実用化しました。

三 葉面積評価センサの特長

栽培するイチゴの株と株との間にセンサを置くだけで、葉を透過した近赤外光(N)と可視光(V)の比率を自動的に計測し、その比率(N

／V) から群落の現在の葉面積と、時間の経過によるこれまでの葉面積の変化を推定して表示します(図3、4)。

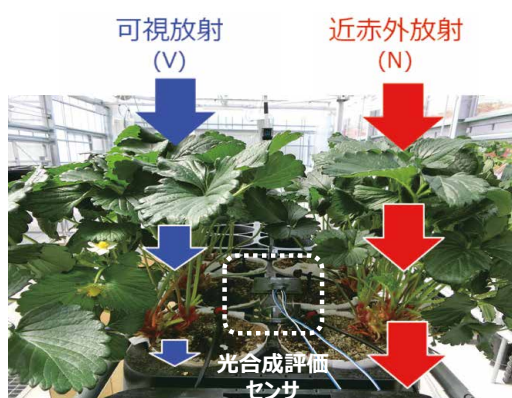
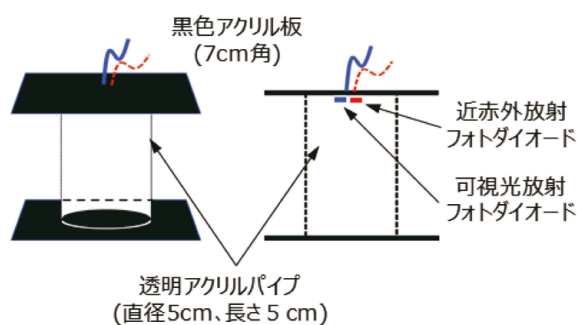


図3 センサの設置状況とN/V比



*特許第7185233号

図4 葉面積評価センサの構造

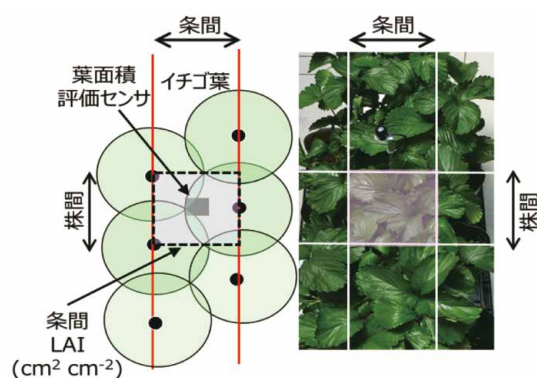


図5 イチゴ葉面積の換算法 (千鳥植え)

連続的な群落葉面積の把握によって、イチゴの生育の良否を数値的に評価することが可能となり、収量を左右する葉面積の最適化を図ることで栽培改善につながります(図5)。

また、このセンサはハウス内の光の強さも同時計測し、他のセンサなどと組み合わせることでCO₂濃度、温度や湿度の測定も可能です。

四 今後の展開

葉面積評価センサによって株全体の葉面積が簡単に分かるようになること、ハウス内の温度や湿度などの環境データと組み合わせることで、光

合成量を精度良く推定することができま。

農作物の高品質・多収化に向けた栽培管理法の確立には、光合成の最大化が不可欠とされています。光合成の最大化とは、光合成に影響する葉面積及びハウス内環境(光量・光質、温・湿度、CO₂濃度など)の関係を明らかにし、速やかな栽培管理の改善によって光合成量を最大化して多収に結びつけることです。しかし、葉面積はもちろん、気温やCO₂濃度などのハウス内環境の管理は生産者の

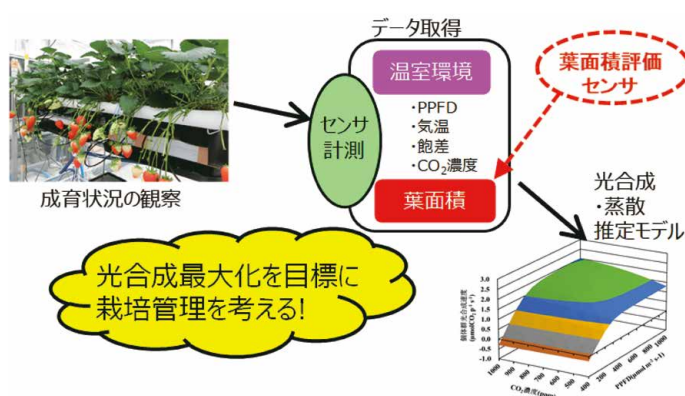


図6 光合成の見える化

経験と勘によって行われており、必ずしも光合成の最大化に結びついていませんでした。

そこで現在、葉面積評価センサを活用し、光合成の最大化を目標として栽培管理を支援する「光合成最大化支援ツール(仮称)」の開発に取り組んでいます。本ツールは、毎日の光合成量を見える化するだけでなく、シミュレーションにより現状のハウス環境や葉面積管理の改善策を生産者に提示することで、光合成の最大化を図り多収化につなげることが期待できます(図6)。

おわりに

次世代栽培システム科は、AOIプロジェクトの一員として引き続き、先端技術を農業に活用する研究開発や、農業関連産業のビジネス展開を支援し、県内農業のスマート化を推進していきます。

連絡先

沼津市西野317
静岡県農林技術研究所
次世代栽培システム科
Mail: agriseda@pref.shizuoka.lg.jp
TEL: 0555-9555-9330

「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当:食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

静岡県産米流通連絡協議会(事務局:食糧部)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米のPRを行っています。

令和5年度の第9回目(1月20日)の放送では、お笑い芸人のモグライダーが磐田市と袋井市から「にこまる」の令和5年産の新米を紹介しました。「にこまる」は、ふっくらもちもちの食感と粒ぞろいの良さが特徴で、静岡県西部地区の「にこまる」は2022年の食味ランキングにおいて5年連続で「特A」評価を獲得しています。

番組では、JA遠州中央の生産者、土屋敦司さんと土屋貴史さんがビデオメッセージで出演し、「にこまる」の美味しさをPRしました。



JAタウン しずおか「手しお屋」おすすめ商品のご紹介

静岡いちご特集!

静岡いちごの主力品種「紅ほっぺ」「きらび香」販売中です! 贈答におすすめのホールパック、ご家庭用におすすめの平詰めを取りそろえています。詳細は商品ページをご覧ください。

紅ほっぺ



【商品紹介】

「あきひめ」と「さちのか」を交配させた静岡県生まれの品種。ほっぺが落ちるほど美味しいとして「紅ほっぺ」命名されました。大粒な果実で香りが良く、果汁も多いことが特徴。適度な酸味・コクが楽しめます。

きらび香



【商品紹介】

輝き・香り・甘みが特徴的な静岡県生まれの新品種。キラキラした宝石のような輝きに品の良い甘みとフルーティーな香りから名づけられました。みずみずしくなめらかな口当たりが楽しめます。



JAタウン大決算セール開催中!

JAタウンでは今年も「大決算セール」を開催します。

セール期間中は、対象商品に使用できる20%OFFクーポンを配布します。セール期間は2月14日(水)~3月18日(月)です。

※クーポンのご利用には会員登録が必要です。

※本キャンペーンは予告なく終了する場合があります。

しずおか「手しお屋」
大決算セールはこちら▶



提携協NEWS

令和5年度 Vol.2

「静岡県協同組合間提携推進協議会」（略称：提携協）では、1990年の発足以来、構成団体である県域の協同組合（農協・漁協・生協）6団体間で事業提携に向けた検討や交流事業、環境保全活動などに取り組んでいます。この提携協NEWSでは本協議会の活動内容について報告します。

本会大井川肥料工場などで施設見学会

9月25日、提携協構成団体施設見学会を実施しました。

現地視察、意見交換を通じて各構成団体の事業について理解を深め、今後の各組織での活動や協同組合間提携に活用していくことが目的で、今年度が初めての実施となり、焼津市の本会施設、大井川肥料工場、大井川港肥料倉庫、土壌肥料分析センターの3カ所で視察巡回を行いました。

同工場で製造、供給する配合肥料は、農家組合員の意向と県下JAの指導を反映したオーダーメイド品となっており、県内で流通する配合肥料の80%を占め、県内の農業を支えています。

見学会では、国内外から調達する肥料原料の情勢、港の船舶から荷揚げする状況の説明や、未利用資源活用取組を確認しました。工場内では、原料投入から製品になるまでの流れを確認し、製造された肥料製品を保管、県内へ流通するまでの流れの説明を受けました。また、工場に併設する土壌肥料分析センターでは、製造された配合肥料品質の分析や農地の土壌診断による、農家組合員への適正施肥の支援機能を確認しました。



協同組合学習会を開催

11月16日、協同組合のあり方と役割を再認識し、他の協同組合の組織や事業、活動について意見を交わすことを目的とした「協同組合学習交流会」を静岡市内で開き、各団体の役職員28人が参加しました。はじめに提携協の紹介として、活動内容や各団体の事業について説明しました。その後、外部講師を招いて「気づき」をテーマに講演し、参加者は5つのチームに分かれてグループワークを行いました。「それぞれの組織に必要なこと」についての意見交換やチーム内での会議を設定したワークに取り組み、交流を深めました。



静岡県いちご協議会



静岡うまれの
紅ほっぺ
みちよぱ

はおいしさ
みちよパーセント!

紅ほっぺ 静岡県いちご
大粒果実に甘みとコクが織りなす絶妙なバランス
紅色がとても鮮やかな静岡いちごの代表格

静岡県いちご協議会



静岡うまれの
きらび香
みちよぱ

はおいしさ
みちよパーセント!

きらび香 静岡県いちご
宝石のような輝きと甘さ際立つフルーティーな香り
口当たりなめらかな静岡いちごの至高の一粒

担当：みかん園芸部 野菜花卉課 (TEL：054-284-9714)

